

令和元年度第2回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 令和2年 2月6日(木) 9:30~11:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| ・狐塚 章一委員 (市小学校長会) <副会長> | ・平野 勝委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会) |
| ・菊地 明夫委員 (市中学校長会) | ・村田 靖委員 (県林業センター) |
| ・五十嵐市郎委員 (市子ども会連合会) | ・坂内 剛至委員 (有限会社ネイチャープラネット) |
| ・櫻井 政義委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会) | ・佐藤奈美子委員 (公募) |
| ・池田 幸枝委員 (市レクリエーション協会) | ・宇賀神光夫委員 (公募) |
| ・月橋 春美委員 (県キャンプ協会) | |

(事務局) 稲澤 正明所長, 村山 弘樹副所長, 矢野 学指導主事, 長谷部 大樹指導主事

○欠席者氏名 ・黒後 洋委員 (宇都宮大学) <会長>

・池田 誠委員 (市PTA連合会)

○公開 (傍聴者の数 0人)

1 開 会

2 会長あいさつ ※会長欠席のため, 副会長による

3 議 題

(1) 報告事項

令和元年度事業経過報告について

ア学校受入事業

事務局 : (資料に沿って説明)

副会長 : ご意見, ご質問はあるか。

佐藤委員 : 保健室利用状況の中で, 病院を受診したものの中に「角膜損傷疑い」が2件あるが, どういう状況だったのか。

事務局 : 野外炊飯中に煙が目に入り, 目の痛みを訴えたというのが1件。そして, つりの活動中に, 眼瞼に釣り針が入ってしまったというのが1件。釣り針の件については, 針が刺さったことが直接の原因ではなく, 入った後に目をこすったことが原因だった。

櫻井委員 : 新アクティビティのジャイアントラダーについて, 動画を見ると, 梯子の足をかける部分の間隔が広いように思える。

事務局 : 体験をしたのはセンター職員。大人なので, 確かに間隔は広めだった。間隔は調整できるので, 子どもが体験をするときは, 狭めることもできる。また, 敢えて間隔を広げたり狭めたりし, 難易度を調整することも可能である。今後, それについては更に検討をしていく。

副会長 : やりながら調整を図っていくということ。

菊地委員 : 間隔が狭いと, 2人で協力して工夫をするということが少なくなってしまう。2人で協力して工夫をするということに意味を見出しているということは, 中学生には間隔を広めて提供する, 小学生には間隔を狭めて提供するということか。

事務局 : ジャイアントラダーについては, 中学生限定の活動である。

菊地委員 : 垂直降下の高さはどのくらいか。

事務局 : 10m・6m・4mの3か所で行う。その3か所の中から, 子どもたち自身が選んで行う。その際, 現在実施しているラペリングという崖を下るような活動を, 垂直降下の練習として行う方向で考えている。

菊地委員 : 10mの高さだと, 怖さが勝るのではないか。

事務局 : 体験した職員は, 特に, つり橋を乗り越えてスタート位置に立つというところに怖さを感じていた。その怖さに打ち勝つようなチャレンジであるということ子どもたちに伝えるとともに, 安全に実施できるように支援していく。

菊地委員 : 用具の装着も重要になってくる。慎重に考えていかなければならないと思うが, それについてはどうするのか。

事務局 : 研修を行ったうえで, 装着は職員が担う。更に, ダブルチェックできるようにする。また, バックアップの装置も1つではなく2つにし, 安全確保に努める。

- 菊地委員 : 中学生にとって、とても有意義な活動になりそうである。ぜひ、安全に配慮しながら実施していただきたい。
- 宇賀神委員 : 道德教育との関連について、調査方法や何年分の蓄積データなのかについて伺いたい。
- 事務局 : 本資料で提示しているものは、昨年度1年分のデータである。各学校1学級抽出で、冒険活動教室事前・事後・1か月後の計3回のアンケート調査の結果から、分析・考察を行っている。なお、小・中学生合計して、約2700人のデータである。
- 宇賀神委員 : 今後、道德教育が更に注目されるであろうことから考えると、ぜひ、冒険活動教室を通して、道德性を育んでいただきたい。
- 副会長 : 蓄積されたデータを、今後も検証していくということが重要である。

イ主催事業

- 事務局 : (資料に沿って説明)
- 副会長 : ご意見、ご質問はあるか。
- 月橋委員 : 家族ふれあいキャンプについて、当選者の選び方はどのようになっているのか。また、応募が48組で当選が15組というのは、もったいないのではないか。例えば、実施日を2枠にしてみたり、当選数を増やしたりして、もう少し受け入れられるとよい。野外教育やキャンプへのきっかけ作りとして、多くの方の受け入れができるとよい。
- 事務局 : 当選者の選び方については、抽選である。ただし、過去の申し込みデータをもとに、初参加なのかリピーターなのか、過去に当選したか落選したかということなどを考慮している。また、実施日の枠を増やすことについては、その他の一般利用者の受け入れ枠を減らすことにつながるの、なかなか難しい。
- 佐藤委員 : 家族ふれあいキャンプもそうだが、その他の主催事業についても、事前にキャンセルが出た場合は繰り上げ当選として扱ってもよいのではないか。そうすれば、予算にも影響が少なくなり、さらに、参加者へのチャンスが増え、野外教育やキャンプへのきっかけ作りにつながるのではないか。
- 事務局 : 12月実施の「もりであそぼう」については、インフルエンザの流行等も考慮し、募集数よりも当選者を多くとっている。さらに、事前にキャンセルが複数出た場合は、再抽選を行い繰り上げ当選としている。8・9月実施の「ちびっ子キャンプ」については、事前にTシャツを揃えるなどの事前準備があるので、繰り上げ当選を取り入れるのは難しい。ただし、どの事業においても応募数からするとニーズがあるといえるので、取り入れられる場合には、前向きに検討していく。
- 平野委員 : ちびっ子キャンプの日帰りについて、土・日に実施することで一枠増やすのはどうか。
- 事務局 : ちびっ子キャンプは、日帰りと宿泊をセットで行う事業である。ちびっ子キャンプを主催事業として立ち上げる過程で、キャンプ協会とも相談し、日帰りと宿泊をセットで行うこととなった。小学校低学年の児童がいきなり宿泊を行うよりも、前段階で日帰りを行い参加者や指導者と顔合わせ等を済ませた方が、児童も保護者もキャンプに臨みやすいのではないかとすることでこのような形式で行っている。だから、日帰りの枠を増やすということも難しい。
- 五十嵐委員 : ちびっ子キャンプのように、低学年を対象とした事業を実施していただけると、市子ども会連合会としてもありがたい。こういった事業に参加した児童が高学年になって、子ども会の行事にもその経験を生かすということになってくれば、非常にありがたい。一つ伺いたいのだが、参加費の検討というのはどういうことか。
- 事務局 : 消費税等を踏まえて、参加費の値上げを検討するという。今年度は5,500円を徴収したが、6,000円程度に値上げをしてもよいのではないかと。
- 櫻井委員 : 各事業においてアンケートを実施しているが、「満足できない」理由はどのようなものがあるのか。
- 事務局 : 全体としては、「満足できた」というものがほとんどである。「満足できない」理由としては、例えば、「自分に合わない活動があった」というものが挙げられる。自分に合わない活動によって、ストレスを感じたということである。
- 櫻井委員 : 苦情のようなものはあるのか。
- 事務局 : 苦情のようなものはない。
- 坂内委員 : 冒険キャンプについて、応募数とその内訳を教えてください。
- 事務局 : 今年度は53名の応募があった。応募者全員の参加が実現できた。募集は50名だった。応募者の内訳は、小学校5年生が多い。中学生は全体の2割程度。中学校3年生については非常に少ない。ちなみに、中学生の参加者にはリピーターが多く、5年間参加するということを目指したり、5年間参加したということ自信につながりしている。
- 村田委員 : 要望として、アンケートの内容や回答を示してほしいということがある。
- 事務局 : 今後、そのようにしていく。

- 月橋委員 : その際は、参加者がどのようなことに満足しているかが分かるようにしてほしい。そうすることで、キャンプの魅力や野外活動の魅力などを発信できるようにしてほしい。
- 事務局 : アンケートでは、事業全体の満足度を取っている。また、個々の活動についても参加者の思いが分かるようなものになっている。そういったことも示せるようにしていく。

ウ一般受け入れ事業

- 事務局 : (資料に沿って説明)
- 副会長 : ご意見、ご質問はあるか。
- 宇賀神委員 : 榛名山・男山・本山については、登山道の復旧は進んでいるように思う。ただし、倒木は目立つ。また、登山者が増えているということもあり、ごみも目立つようになっている。登山者のマナーについても呼びかけられれば良い。
- 事務局 : センターでも、榛名山・男山・本山については登山が可能であることが確認できている。飯盛山と高館山の舗装路部分が通行できない状態である。山の様子を確認しながら、登山道について修復できるところは修復し、マナーについても呼びかけられることは呼びかけていく。
- 佐藤委員 : 新型コロナウイルスが蔓延してしまうのは仕方ない部分があるかもしれないが、多くの方を受け入れる冒険活動センターとしては、どのような対策を考えているのか。
- 事務局 : 第一段階としては、注意喚起を行う表示をする。また、インフルエンザ同様の対応を考えている。現段階では、受入拒否等は考えていない。

(2) 協議事項

① 令和2年度事業計画案について

ア学校受入事業

- 事務局 : (資料にそって説明)
- 副会長 : ご意見、ご質問等はあるか。
学校受け入れ事業については、事務局案で進める。

イ主催事業

- 事務局 : (「一般公募事業」について説明)
- 副会長 : ご意見、ご質問等はあるか。
一般公募事業については、事務局案で進める。
- 事務局 : (「利用促進事業」について説明)
- 副会長 : フェスティバルの日程について、ご意見、ご質問等はあるか。
- 平野委員 : フェスティバルの日程について、特に問題はない。
- 坂内委員 : フェスティバルは紅葉の時期に開催されるので、協力団体を増やすのがなかなか難しい。けれども、前もって実施日が分かっていたら協力をお願いすることはできるので、引き続き声をかけていく。
- 事務局 : (「指導者養成事業」について説明)
- 副会長 : ご意見、ご質問等はあるか。
- 坂内委員 : NEALという制度ができてから、指導者養成事業では多くの団体が苦しんでいる。育てたリーダーのスキルアップをするための講習会を行ってもよいのではないか。リーダーからさらに上を目指すという方も少なからずいると思うので。また、キャンプ協会にはキャンプインストラクター指導者養成制度もあるので、そこも連携をとりながら、スキルアップの講習会を行っていけば、参加者は増えるのではないか。
- 月橋委員 : キャンプ協会でも指導者養成の講習会は行っているが、スキルアップというものはなかった。今後検討していく必要がある。
- 宇賀神委員 : 若者の参加が少ない理由は、どういったものが挙げられるか。また、宇都宮大学のほかに、宇都宮市内の大学と連携をしているのか。
- 事務局 : 若者の参加が少ない理由としては、土・日の一泊二日という時間を使わなければならないというものがあるのではないか。また、広報の仕方も検討する必要があるのではないか。大学に関しては、宇都宮大学のほかに共和大学や作新大学に資料を送付して呼びかけている。市外では白鷗大学にも呼びかけている。
- 副会長 : そのほか、どうか。
- 事務局 : ネイチャープラネットとの連携ということでは、NEALリーダー取得希望者がいた際に情報としてネイチャープラネットを紹介したり、冒険活動センターと共催したりというのは可能か。
- 坂内委員 : 連携は可能。資格を取得した方がリーダーとして活動する場が少ないということもあるの

- で、そういう方が参加できるものを模索するという点でも連携は可能だと考える。
- 菊地委員 : NEALという制度だが、資格を取るとどのようなことができるのか。また、その資格と冒険活動センターの事業がどのように関わるのか。
- 事務局 : 認知度が低いものではある。自然体験を、国で統一したカリキュラムでやっていくという流れでできたものがNEAL。おおまかな説明になるが、リーダーという資格を取得すると、自然体験活動プログラム実施の際、基礎的な指導にあたることができる。インストラクターという資格を取得すると、自然体験活動におけるプログラムの直接指導ができる。コーディネーターという資格を取得すると、自然体験活動事業を企画・運営・評価することができる。そして、その有資格者が学校支援や主催事業の支援にあたるということ。
- 菊地委員 : 資格取得が職員になる条件とすると、職員確保が難しくなる部分もあるだろう。しかし、冒険活動センターのスタッフが充実しているということが、学校としては非常にありがたいところでもある。最近、中学生も含め若者が、外に出たがらないという傾向があるのではないか。体験してみると楽しいということもあり、主催事業はもちろん、中学校3年間でこの二泊三日の冒険活動教室というのは非常に有意義であり、学校生活にも生かしていこうというもの。指導者を養成することで活動が広がり、参加者も満足するという相乗効果を出せばよい。今後は、指導者養成事業については、大学との連携を前面に押し出していくということか。
- 事務局 : そうすれば、参加者も増えるのではないかと考えている。ただし、個別に参加したいという声があれば、それも踏まえていきたい。
- 菊地委員 : 大学だけではなく、他の団体との連携も考えるということか。
- 事務局 : 他の団体との連携も模索していくことになる。

ウ一般受入事業

- 事務局 : (資料にそって説明)
- 副会長 : 専門業者への安全点検の依頼とあったが、具体的にはどのような内容か。
- 事務局 : センターにある一般的な遊具とは異なるもの、例えばウォールやワイヤーを張ったもの等について、専門業者に点検をしてもらうというもの。
- 村田委員 : 林業センターとの連携を更に深められればと考えている。林業センターでは森林・林業について理解を深めていただくため、各種体験学習を実施している。今後は、材料の提供だけでなく、アクティビティの一つに林業体験できるメニューを入れられればと思っている。林業センターの人材も活用していただきながら。
- 宇賀神委員 : それに加えて、登山道にある木々の名前や説明などの掲示をしてもらえるとありがたい。
- 事務局 : 検討していく。

② 職員の人材確保についての協議・意見交換

- 事務局 : (資料に沿って説明)
- 副会長 : ご意見、ご質問等はあるか。
- 坂内委員 : 告知方法はどのようにしているのか。
- 事務局 : 宇都宮市の広報誌、ホームページが主なもの。さらに、大学に出向いて告知をしたり、退職教員向けの資料を作成して告知をしたりしている。
- 坂内委員 : 人材確保ということと若者を考えるのなら、SNSを利用するのもよいのではないかと。研修の様子や施設の様子などを定期的に発信することで、興味を持ってもらえるのではないかと。ただし、公の施設ということで難しい部分もあるかもしれない。
- 事務局 : 今後、SNS含め告知方法について検討していく。
- 事務局 (所長) : 人材確保については、センターが一番頭を悩ませている問題。事業一つ一つに、多くの人員が割かれる。安全対策や準備に人員が割かれる。人気のある事業については、参加者を増やすという考えもあるかもしれないが、そうするためには、職員の配置も増やすことが必要不可欠である。また、職員の人手不足だからといって、簡単にやめてしまえる事業があるわけでもなく、市民のニーズにこたえるのがセンターの責務である。だからこそ、各機関とも連携をし、人材確保を進めていきたい。また、そういった点からも、SNSについても検討していく。
- 五十嵐委員 : 職員募集を、市の広報誌だけでなく無料で掲載してもらえれば媒体に載せるのもひとつ。また、ホームページ含め、若者が目にしたときに興味を持つような内容にしていくことも必要。

③ 運営協議会のもち方についての協議・意見交換

- 事務局 : (資料に沿って説明)
- 副会長 : ご意見、ご質問等はあるか。

副会長 : 来年度の運営協議会は事務局案のとおり年1回ということで調整を図る。

③ 「その他」について協議・意見交換

副会長 : 何かあるか

五十嵐委員 : 冒険活動事業に関することについて、市に予算を要望してはどうか。人材確保という部分でも、施設や事業を維持するという部分についても、予算の要望が必要ではないか。何かが起こった時には、その責任を市やセンターが負わなければならないこともある。また、冒険活動事業が充実することは、市の子どもたちの育ちに直結する。だからこそ、予算を要望してはどうか。

副会長 : 予算の要望も視野に入れていくことも必要。

宇賀神委員 : SNSについて。なぜ、宇都宮が餃子で有名になったかという、SNSを活用したからである。これについては民間が行ったものだが、良いものを発信していくというスタンスは取り入れていただきたい。

月橋委員 : 大学との連携について。学生を取り巻く環境として、情報が多くあるというものがある。情報があり過ぎるゆえに、見向きもされない情報も出てくる。だからこそ、人材確保という観点からも、今年度も実施したが、センター職員が大学に直接出向き、センターについての情報を発信していただくことが必要である。場所の問題、他のアルバイトとの兼ね合いなどの事情もあるが、今まで以上に学生たちに呼び掛けていきたい。今まで以上に連携を図れればと思う。

村田委員 : 協議会資料について。パワーポイントの資料もよいが、作成に労力がかかるのではないか。また、パワーポイントだと、一つ一つの情報が小さくなり見づらいということもある。通常の資料の作り方でも十分ではないか。事務の省略化、働き方改革にもつながると思う。

5 閉 会